教育広報
県北の教育
発行所
福島県教育庁県北教育事務所
福島市杉妻町２番１６号
☎０２４－５２１－２８１３
発行者　橋本　美弥子

「ブラッシュアップし続ける」

県北教育事務所長　橋本　美弥子

現在、次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会において、小中高校での情報教育の拡充や、標準授業時数の弾力化等について議論されており、今後の動向を注視しているところである。

今回の改訂にあたり、文科省では、小学生から高校生を対象に、今後の学校での学びの在り方等について意見を聴取した。その中の授業に関する子どもの意見を紹介したい。

「ワクワクした授業」は、学んだことと生活や社会とのつながりを感じる授業や友達と一緒に活動する授業等**【例：理科の流れる水の働きで、みんなで校庭の山に協力して川を作ったとき。いつもは喧嘩ばかりしているみんなと協力できて、その実験のおかげで団結力が深まったから。（小学5・6年生）】**で、反対に「がっかりした授業」は、一方的な授業、自分で考えることがない授業等**【例：先生がただ単に話しているだけだと頭にも入ってこない。「考える」行動が入ると、身につくし楽しい。（高校生年代）】**である。

さらに、「自分の力をつけるために求める授業」は、主体となって考える授業**【例：生徒たちが考えることをメインとした、生徒主体の授業、実践的な授業がいいのではないか。（中学生）】**の他、自分のペースに合った授業、学んだことと社会がつながる授業、デジタル端末を活用した授業等で、子どもたちこそが主体的・対話的で深い学びを求めていることが窺われる。

※令和７年５月１２日教育課程企画特別部会参考資料３-２より一部抜粋

ところで、子どもたちを取り巻く教育環境も大きく変化してきている。令和7年度学校基本調査の速報を受けた報道によると、令和6年度調査から 270 の小中学校が減り、高等学校の在学者数が減少傾向にある中、通信制の在学者数は増加しており、高校生の約 10 人に 1 人が通信制に通う状況となっているという。また、令和6年度に公表された令和5年度の小・中学校における不登校児童生徒数は過去最多の 346,482 人で、前年度からは 47,434 人の増加となっている。改めて「これからの学校教育の在り方」について考えさせられる。

学校に魅力がなくなっているのか？ゲームの魅力に勝てないのか？因みに、AIに「ゲームの魅力とは？」と尋ねたところ、以下のような回答があった。

没入感と冒険心、成長と挑戦、コミュニケーションと共有、ストレス解消、創造性の発揮など、ゲームは単なる娯楽ではなく、豊かな体験と学びの場でもあります。その魅力は、私たちが新しい世界を探求し、成長し、つながり、創造するための可能性を提供しています。

これらの魅力こそ、学校教育で体験させたいものではないのか。万が一、知識など学力の一部の教授が、AIに取って代わられる時代が到来した時、私たち教員に求められることは何か？それはAIにできない、人間にしかできないことである。人間と人間が関わることでしか指導できないこと、例えば生徒指導の機能を生かした授業、道徳的な指導など人間性の育成に関する部分はAIが取って代わることは難しい。今はまだ、温かな人間関係に基づいた学級集団をつくることは、教員にしかできない。

そして、どんなにDXが進んでも、本物の体験を提供することは学校の大切な役割ではないか。自然や芸術に触れたり、実際にものを作ったり等、自らの感覚を存分に駆使し、しかも、人間同士の触れあいの中で行っていくことが重要なのではないか。

やはり、学校はひと・もの・ことに直接触れるリアルな体験ができる場でありたいし、そうなるように自分の〈観〉をブラッシュアップし続けたいと思う今日この頃である。

総務社会教育課（社会教育担当より）　「地域連携担当教職員等研修会」

令和７年７月３１日（木）福島県庁西庁舎１２階において、県北域内の学校関係者、各市町村行政担当者等、２７名参加のもと標記研修会を開催しました。この研修会は、学校と地域との連携・協働の意義について学び、推進の方策等について考え、様々な立場の方と議論をしながら、地域連携担当教職員等の資質向上を図ることを目的として実施しました。

【講　話】「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」
文部科学省総合教育政策局 CS マイスター　安齋宏之　氏
【事例発表】「子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり」
～地域と学校の両輪で不登校を考える～
東京都八王子市立松木中学校運営協議会　会長　金山滋美　氏
【熟　議】「今、不登校の子どもたちのために
学校と地域が連携・協働してできることは何か考えよう」
文部科学省総合教育政策局 CS マイスター　安齋宏之　氏

学校運営協議会が問題意識をもつことにより、様々な家庭や子どもに関わる課題の改善に向けた取組・場所・支援者が増えてきているのを実感しています。学校課題（子どもの問題）を解決することは、地域の問題解決にもつながります。

【参加者の感想から】
○学校運営協議会をどのようにすすめていくのか学びたくて参加させていただきました。学校と地域をつなごうとする人を増やすという意識で取り組んでいきたいと思いました。
○講義でも多くの学びがありました。また、熟議を今回初めて体験しましたが、テーマの解決に向かって、小集団で意見を出し合うプロセスを学ぶことができました。

学校教育課（管理担当より）　「メンタルヘルスケアで、生き生きと働けるように」

子どもたちの前で、いつも笑顔で生き生きと働けるように、職場の力でメンタルヘルスケアに取り組みましょう。メンタルヘルス対策として、身体のヘルスケアと同様に、病気を未然に防ぐため、また再発を防止するため、次のような手段が有効であるとされています。

■働きやすい環境づくり

職場環境の改善は、心の健康の保持増進にとても効果的です。職場でできるところから改善してみてはどうでしょうか。

・照明、温度、座席等のレイアウト　・心身の疲労回復を図るための施設、設備等の物理的環境
・会議の持ち方、情報の流れ方、職場組織のつくり方　・職場内の人間関係、コミュニケーション　など

■早期発見と適切な対応

メンタルヘルスケアにおいては、ストレス要因の除去や軽減、自らが行うストレス対処等の予防策が重要ですが、メンタルヘルス不調に陥る職員が見られた場合には、その早期発見と以下のような適切な対応が必要です。

・メンタルヘルス不調への気づきとケア　・職場内の相談に応ずる体制
・職場外の相談機関の活用　・ストレスチェックを行うことができる機会の提供
・職員の家族による気づきや支援の促進

一人で悩みごとを抱え込まないで、家族、友人、同僚教職員、管理職などの支援も得ながら早期解決を図っていきましょう。

子どもの学びと教師の学びは相似形　～学び続ける教師の姿～

７月３０日（水）、本宮市立本宮まゆみ小学校を会場に、「県北の子どもたちの幸せを紡ぐ　学級・授業づくりセミナー」を開催しました。例年、現職の先生方と教職を目指す大学生を対象としていた本セミナーですが、今年度は教員コースをもつ福島県立橘高等学校と福島県立福島東高等学校の生徒も対象者に加え、総勢１２０名（講座講師含む）もの方々にご参加いただきました。各講座においては、講師の先生方の優れた実践報告と協議を通して学級づくりや授業づくりについて考えるとともに、将来、教員を目指す大学生や高校生に教員のイメージをより具体化してもらうことができました。参加した先生からは「今日の学びを２学期からの授業に取り入れていきたい」「授業についてじっくりと考えるよい機会となった」等の声が聞かれました。

参加者の声（抜粋）

ぜひもっと多くの方に参加していただきたい研修です。一方的に話を聞くだけではなく、自由にやりとりをしながら教科の本質に迫ることのできる研修は貴重です。【教員】

実践を通したお話が多かったので、すぐに取り入れてみたい、真似してみたいと思う内容がほとんどでした。来年度も開催されるのであれば、ぜひ参加したいです。【教員】

先生方が明るく声をかけながらお話しされている様子を見て、横のつながりの広さを感じ、教育現場に向かわれているチームのような印象を受けました。講義中も熱心にノートをとられていて、先生方の学び続ける姿勢に尊敬の念と私も見習いたいという思いでした。【大学生】

先生は生徒に勉強を教える仕事だと思っていたけど、それだけでなく、生徒がどう考えるかどうしたら理解が深まるかなど、教えるだけでないことが分かった。講座を通して先生になりたい気持ちが強まった！【高校生】

★☆授業づくりを支援します☆★

教育課題の解決に向け、要請に応じて訪問支援を行っています。

要請内容は主に以下のようなものがあります。お気軽にお申し込みください。

- ★　授業参観（各教科）を通した指導・助言
- ★　研究協議会等における指導・助言、講義・演習等
- ★　学習指導案の検討
- ★　教育課程に関する相談等

効果的な援助体制の充実に向けて

「域別シンポジウム」より

令和６年８月に「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」が改訂され、これまで以上に円滑かつ適切な調査の実施といじめの被害児童生徒や保護者に寄り添った対応が求められています。このガイドラインの改訂と域内における生徒指導の課題を踏まえて、今年度の域別シンポジウムを開催しました。参加いただいた 65 名の先生方と講義や協議を通して、子どもの問題行動への対応の在り方や保護者との関わり方について考えました。

「子どもが抱える課題等を早期発見し、早期対応を図ること」「未然防止の視点をもって子どもの変容を見逃さないこと」「関係機関等が相互に理解や連携をしながら効果的な援助体制を構築すること」の大切さについて確認しました。

「豊かな心」を育む道徳教育の推進

推進校：伊達市立伊達小学校

今年度の道徳教育推進校である伊達小学校では、研究テーマ「主体的に学びに向かい、自己を見つめることのできる児童の育成　～互いのよさを認め合いながら、多面的・多角的に考える道徳科の授業を通して～」の下、「親切、思いやり」を重点内容項目とした道徳教育の推進と要である道徳科の授業改善に取り組んでいます。

１１月に開催する地区別推進協議会では６学級が道徳科の授業を公開する予定です。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

「令和7年度 県北教育事務所 学校教育指導の重点」につながります。

幸せを紡ぐ県北の教育

すべての子どもが運動の楽しさや喜びを味わうことができるように!!

小・中・義務教育学校及び高等学校、特別支援学校の先生方を対象に「体育・保健体育指導力向上研修地区別研修」を実施しました。

スポーツ庁主催で行われた「体育が苦手な児童生徒のための授業づくり研究大会」の研修内容に、先生方自身が体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら取り組むことで「今後の授業に生かしていきたい」という声を多く聞くことができました。

食のプロフェッショナル、栄養教諭が活躍中！

『ふくしまっ子栄養教室』では、栄養教諭の先生方が地域の幼稚園や小・中・義務教育学校などで「食」の大切さを伝えています。今年度も授業の内容は、子どもたちの年齢や学校の要望に応じて様々です。「健康と食事のバランス」や「朝ごはんの大切さ」、そして「食事のマナー」まで、栄養教諭の専門的な知識を生かした工夫あふれる授業が数多く実施されています。

「学びの道標」を活用していますか？

特別支援教育に関する研修の企画・実施を充実させるために、福島県特別支援教育センターでは「学びの道標（研修コンテンツ・パッケージ）」を作成し、ホームページにて公開しています。本所においても、先生方が対話や演習を通して効果的に学び、子どもの気になる行動から考え、見取り、適切に指導・支援を行うことができることを目指し、域内の学級・授業づくりセミナーや、各学校等への研修支援で紹介し、活用しています。「一人一人にどんな力が必要か考えて、一人一人に合った支援方法を工夫していきたい」「（行動の背景・要因について）他の先生が自分では思いつかなかった理由を挙げていて、情報を共有してチームで対応する大切さを学んだ」といった声が聞かれ、とても好評です。また、研修動画、研修の手引、スライドやワークシートが整っており、手軽に活用できます。「学びの道標」を積極的に活用し、全教職員で学び、子どもの理解を深め、日々の指導・支援に生かしていきましょう。

育ちと学びをつなぐ架け橋期のカリキュラム

幼児教育の質の向上と幼小連携の充実を目指し、7 月 24 日(木)・25 日(金)、8 月 6 日(水)・7 日(木)に福島大学附属小学校で「幼児教育実技研修会・幼小連携研修会」を開催しました。

幼保小が教育課程の構成原理等の違いを超えて相互理解を深めるためには、幼保小が協働し、架け橋期のカリキュラムを作成することが重要です。大切なのは互いの教育内容や指導方法を理解し、自らの指導を見直し、工夫していくことです。来年度は小学校等の先生方もぜひご参加ください。

～幼保小連携・接続のこれまでとこれから～

	これまで	これから
目　的	小学校への順応	学びの連続　カリキュラム
内　容	交流活動	カリキュラム編成
期　間	数ヶ月	２年（架け橋期）
実施単位	施設単位	地域単位　体 制

幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子どもの豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。